NO. 43. 1998. 1. 31.

被ばくウクライナの消防職員らに

稲沢

「チェルノブイリの仲間へ」

消防署員が義援金

〝命懸け〟に共感

中島しぐれさん(左)に寄託金を渡す横井赳会長

愛知県の「稲沢市消防組合／職員互助会」の皆さんが、私達の呼びかけに、いち早く応えてくださいました。「消防」という同じ聖職に就く仲間として、ウクライナの消防士達の健康を気遣い、自分達で出し合った浄財を届けてくださったのです。

これがきっかけとなり、この運動が日本全国に広がる事を願っています。（J）

〒466－0822　名古屋市昭和区楽園町137　1－10
チェルノブイリ救援・中部　代表：神野英樹
郵便振替：00880－7－108610
☎／FAX：052－836－1073（月・水・金　10:30 ～15:30 ）

《チェルノブイリ事故処理作業者支援計画》

今も汚染地で働く、事故処理作業者の実状を、『特に消防士や警察官の皆さん』を始めとする日本中の人々に伝え、救援を呼びかけたいと思います。
いくつかの計画を立てましたので、皆さんの参加・協力をお願いします。

石棺を閉じた男たち・講演会 PART－II （仮称）

1．招待予定者

「チェルノブイリ原発事故処理作業者協会」のアントニューク氏とオレグ氏の二名。
（アントニューク氏は、1993年に来日し「石棺を閉じた男たち」で講演をされています。）

2．来日予定期間

１９９８年４月２０日（月）～５月２日（土）

3．講演会の場所と日程

①名古屋　４月２５日（土）　名古屋市港文化小劇場
②一宮　４月２６日（日）　一宮スポーツ文化センター・小ホール
③静岡県内（浜松または浜岡または静岡）
④岐阜県内（瑞浪または土岐）

追悼コンサートと講演会の二部構成とします。
（コンサートは、岐阜交響楽団の方が、ボランティアで出演してくださいます。）

4．交流会

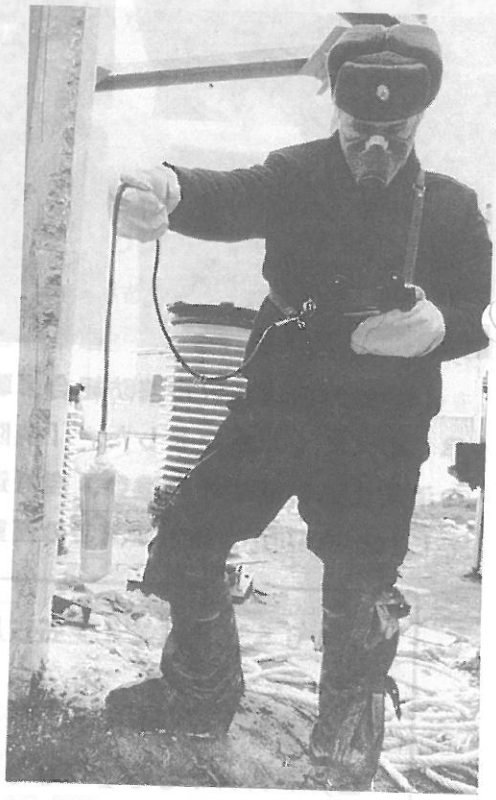
現在のところ、岡崎と伊那を予定しています。
交流会を希望をされる地域の方は、事務局までご連絡ください。
各地の消防署に情報をお知らせし、消防署内での講演会を行なえるよう交渉していきます。
稲沢消防署と昭和消防署には、表敬訪問を予定しています。

5．その他の計画

聞き取り調査（遺族も対象にした）を再度行なう。
チャリティーコンサートを開催する。

’９７ ウクライナ訪問時の聞き取り調査の
「出前報告会」をします！
ビデオ・スライド・パネルを持って、どこへでも行きます。少人数のグループでもＯＫです。
各地で呼んでください。

リキデーター・プロジェクト（橋本）



《放射能を測定する事故処理作業者》

“石棺を閉じた男たちを救え！”

－キャンペーン奮戦記－　中島しぐれ

チェルノブイリ原発事故の第一報を聞いたときから、被災者に思いを馳せていた。93年に、アントニュークさんとオチュカノフさんが来日した折、名古屋での第一声を今でもハッキリ覚えている。「病院には薬も何もない…。」

96年、私が訪ウした折、移住基金との最終会議の席上で質問が出た。「赤ちゃんの為のキャンペーンはいつも成功していますよね。どんな人達が支援してくださっているのですか？」「一宮の場合は、子育て中のお母さん達です。」と私。そこに、遅れてアントニュークさんが登場。彼は、私の目の前に立ち、机に両手をついて中腰のまま語り出した。「私は、一緒に事故処理にあたった、同僚や部下を助けたいと思ってる。オチュカノフさんはお風呂もない古い家に住んでいる。せめて彼を、お風呂のあるアパートに引っ越しさせてあげたい。事故後に消防士になった若い人達は、装備も不十分なまま汚染地で消火にあたり、被曝を重ねている。病院には医薬品も殆どない。私は彼らを助けることができない…。」

「運営委員会に計って、“石棺を閉じた男たちを救え”というキャンペーンを必ず展開します。待っていて下さい！」移住基金のメンバー達の顔がパッと明るくなった。信じられないという表情だった。

97年の訪問団による聞き取り、および事故処理作業者協会の調査。そして11月22日の報告会。この報告会の事を、一宮消防署長・佐藤氏にご案内したところ、近隣の市町村の署長さんに伝えて下さり、さっそく、12月１日、稲沢市・祖父江町・平和町の消防組合互助会から義援金が寄せられた。

12月12日、移住基金に FAX。12月30日、アントニュークさん達からの感謝状の FAX が入った。読める所のみ日本語に訳して、稲沢署に FAX。「…日本の同僚からの援助は本当に嬉しいニュースです。やっと始まったばかりのキャンペーンですが、日本全国に広まることを願ってやみません。…」

ミルクの為のバザー、カードキャンペーン担当、おまけに「海上の森での愛知万博の賛否を問う県民投票」を求める署名集めの「代表・世話人」として、息つく暇もない数か月でした。万博の署名活動を通じて新たに出会った方々も、チェルノブイリを応援して下さいました。救援の輪が、昨年より広がったことを実感した日々でした。これからも、「救援・中部」をよろしくお願いいたします。

1998.1.1.　中日新聞　朝刊

チェルノブイリ支援ありがとう

稲沢などに礼状

「仲間からの支援に感謝する」―。チェルノブイリ事故で事故処理に当たったウクライナの消防局員らに六万千二百五十円を贈った稲沢市ほか二町消防組合職員互助会に対し、現地から新年を祝うメッセージも込めた礼状がこのほど、届けられた。

互助会は、同組合の職員約百五十人でつくる。チェルノブイリ救援・一宮つぼみを守る会（中島しぐれ代表）などを通じて消防局員らの被ばくとその苦しみを知り、自分たちでお金を出し合い、昨年十二月一日に守る会を通じて寄付した。

ファクスで届いた礼状には「私たちの仕事と問題を理解してくれる日本の仲間が、生命と健康を犠牲にして作業に当たった私たちに救援の手を差し伸べてくれて、大変うれしい。新年とクリスマスを祝います」とあった。

互助会の横井越会長は「事情を知った仲間として当然のことをしただけなのに。礼状をいただき、とてもうれしかった。彼らもなんとか元気に頑張ってほしい」と話している。

“ハート to ハート・キャンペーン”に ご協力 ありがとうございました！！

Премия 賞	Prize
ステキな母子賞	名古屋市 桑原典枝さん＆あすなちゃん
グループ賞	名古屋市 ボーイスカウト愛知県19団
グループ賞	名古屋市 ガールスカウトのみなさん
チャイルド賞	瀬戸市 雪の聖母幼稚園YES
アイデア賞	刈谷市 白石富美子さん
スクール(中学校)賞	千種区 愛知淑徳中学校
キンダーガーデン賞	東区 林智子さん
メッセージ賞	名古屋市 伊藤義治さん
スクール(小学校)賞	一宮市 今伊勢小学校
生徒会賞	一宮市 今伊勢中学校
メッセージ賞	名古屋市 石川博仁さん
クラス賞	港区 南陽中学校3年2組
ベストフレンド賞	春日井市 原磨美子さん＆富永まみさん
ボランティア賞	祖父江町 愛知県立祖父江高校JRC部

今回も、高校のボランティア部員の皆さん、小学校、中学校、幼稚園のグループから、そしてたくさんの個人、ご家族の皆さんから心のこもった素晴らしいカードをお寄せいただきました。 全部で「697通」にもなりました。お寄せいただいたカードは、12月10日と17日の２回に分けて、ウクライナのジトーミル州にある移住基金宛てに航空便で送りました。そして、移住基金により消防署員の子ども達・州立小児病院・子ども基金・第25学校の子ども達に配られました。子ども達の嬉しそうな顔が、目に見えるようです。また、お寄せいただいたカードに、いろいろな賞をつけさせていただきました。お母さんとお子さんの手作りカードには「ステキな母子賞」を、素晴らしいアイデアで作っていただいたカードには「アイデア賞」等です。毎年カードを送ってくださる方、今回初めて送ってくださった方、本当にありがとうございました。最後に、12月 7日に開催した一宮のチャリティーバザーで、発送作業を手伝ってくださった高校生の皆さん、どうもありがとうございました。 ハートｔｏハート・キャンペーン担当：救援・一宮 つぼみを守る会 中島しぐれ

大垣ムラサキツユクサの会 大谷 早苗

【ポレーシェ読者紹介コーナー】

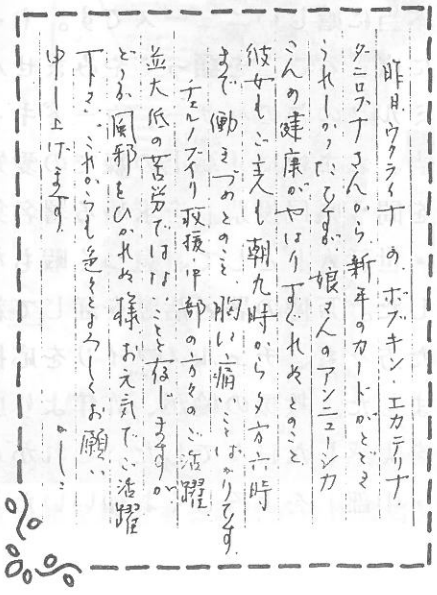
杉浦さんから初めてお便りを戴いたのは、ポレーシェに「一宮のバザーを応援してください。」と書いたすぐ後でした。「作品を郵送するという形でよければ…。」という事で、毎年、熊の縫いぐるみや刺繍、細工物などを送ってくださいます。

また、96年秋に代表団が訪ウした折には、杉浦さんの描かれた日本画が大変喜ばれました。ロシア語も堪能で、あの絵葉書の少女アニューシカさんのお母さん（ボブキン・エカテリーナ・ダニロブナさん）と文通を続けていらっしゃいます。

いつも、ご寄付に励ましのお便りを添えてくださり、私達の救援活動の心の支えになっています。

このインタビューのお陰で、初めてお声が聞けて嬉しかったです。（しぐれ）

《岡山県在住の杉浦房代さん》



昨日、ウクライナのボブキン・エカテリナ・ダニロブナさんから新年のカードがとどきました。娘さんのアニューシカさんの健康がやはりすぐれないとのこと。彼女は美し朝九時から夕方六時まで働きづめとのこと。胸い痛いことばかりです。チェルノブイリ汚染・中部の方々のご活躍並大低の苦労ではないことと存じます。どうか風邪をひかれぬ様、お元気でご活躍下さ。これからも色々とよろしくお願いします。

《 文通の架け橋は今… 》

《集まってくれた文通家族(96.4.24.)》

ウクライナの郵便事情が混乱していたり、日本の美しい切手・手紙に同封された物などを目当てに盗まれてしまったり、アドレスの書き方が不正確だったりと、さまざまな事情が考えられますが、文通の返事が来ない事例が多く発生しています。

その原因をハッキリ知るために、今「移住基金」に追跡調査をお願いしています。一件一件、問い合わせてもらっているため、多少時間がかかると思いますが、もしそれでもダメだったら、ウクライナの現地まで行って、文通の家族を訪ねてみようと思っています。その時には、二年前の「救援・中部」からの問いかけの手紙に、返事の来なかった人々も訪ねてみたいと思います。「文通をしている方々にも広く声を掛けて、『文通ツアー』を計画するのも素敵だな。」なんて考えていますので、その時は皆さんも参加してくださいね。（松田）

ウクライナからの手紙----------(西村研二・恵利)ー

はるばる、ウクライナから来た返信を受け取ったとき、大いに驚き、そして悲しみました。手紙の送り主は、私達が手紙を宛てた「パーベル・アタマンチュク」その人ではなく、彼の妻と、その二人の子供たちから宛てられたものでした。私たちからの手紙が、ウクライナに届いたときには、すでにパーベルはこの世の人ではなかったのです。

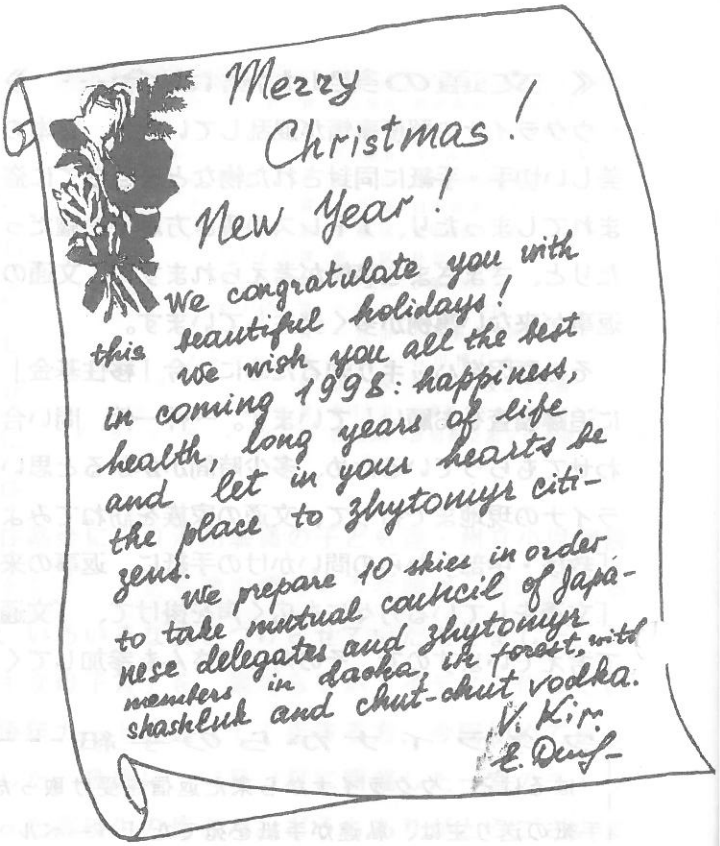
全ての話は、およそ１年ほど前に始まります。当時、都市計画と現代美術をそれぞれ職とする私たち夫婦は、新しく家庭を築いたばかりで、互いの分野からの影響を受け合い、希望と好奇心に、目を輝かせていました。ある時、ウクライナの一地方で活躍する「パーベル・アタマンチュク」という名の建築家が、日本を相手に文通を希望していることを知り、すぐに私たちの紹介と興味を書いた、簡単な文章を作りました。遠いウクライナの建築の話を聞き、街・文化・人々の暮らしをつくる職にあるもの同士、その情熱・経験・想いを共有したかったのです。そして、異国への憧憬の想いを込め、ポストへと投函した日のことを今も覚えています。

それからしばらくして、私たちが受け取ったパーベルの家族からの返信から、彼がすでに一昨年に亡くなっていたことを知りました。そして手紙には、「残された家族のそれぞれのこと、私たち日本人一般から見れば、ほんのわずかな慎ましい幸せのこと、私たちの手紙をとても大切にし、また楽しみにしていること…」などが書いてありました。そして、彼らの家族のとても悲しくつらい状況については、あるだろうにも関わらず述べられていませんでした。それは、私たちに心配をかけまいとする心からか、または自分の住む大地に根を生やし、力強く生活している強さからなのか…。彼の死が、被爆によるものかそうでないかはわかりません。また、被爆の恐怖の中で、それでも歯を食いしばって、ウクライナで生きている家族のことを考えると、チェルノブイリや放射能の事を問うようなまねもできません。ただ、私たちから送るこれからの手紙が、アタマンチュク一家のささやかな慰めになればと心から思います。

文通はプライベートな事なので、その内容を公にしていただくのは大変心苦しい事でしたが、熟慮された後に、救援・中部からの依頼に応じてくださった西村さんご夫妻に心から感謝します。（松田）

ウクライナ⇔日本 〈情報ホットライン〉

´97から´98 へ。ウクライナ（移住基金）と私達（救援・中部）のコミュニケーション（TEL、FAX による情報交換）は、今日も活発に進められています。（J）



12／16 日⇨ウ　ナロジチ病院向けの医療品・救急車、そして粉ミルク用の国際送金をいつ行なうかは、12/20 の運営委員会で議論します。あなた方もご存じの通り、今、円は非常に安くなっています。実際のところ、1ドル当り 131円です。私達は、私達の送るお金が不十分になるのではないかと心配しています。もし必要ならば、あなた方は不足分を自分で調達しなければなりません。ＴＶでは、モスクワが 100年来の寒さだと報じられています。キエフやジトーミルではどうですか？

12／16 ウ⇨日　円安については、私達もよく知っています。しかし、私達も同じ立場にいます。なぜなら、今、1ドルは1.89グリブナ（㊟当初、1ドルは1.75グリブナ）だからです。それで、今、ドルをグリブナに交換すると大変得なのです。1月になれば、物価が上がると言われています。できる限り早く、お金を受け取れるとうれしいのですが…。今夜は氷点下24℃ですが、今週末には氷点下30℃になるそうです。

12／22 日⇨ウ　運営委員会の決定に従い、いくつかの点についてお尋ねします。ウクライナで買う予定の粉ミルクと、フェニールアラニンレスミルクの銘柄は決まりましたか？その名前と単価、それから放射能が含まれていないという「安全証明書」を入手してください。これらの質問の答えを受け取った後、ミルク代金を国際送金します。（㊟その後、ミルクの単価・配分などの情報が、順次送られて来ています。）日本で買ったフェニールアラニンレスミルクと、寄付していただいた17台の車椅子、州立小児病院のために買った医療機器（蘇生装置付き新生児ウォーマー）は、来年1月に船便で送る予定（㊟1/29に名港海運に搬入、2/3 に船積みの予定）です。

12／24 日⇔ウ　「クリスマスと新年おめでとう！！」のメッセージ交換

（㊟6ページの手紙は、ウクライナから日本へのメッセージ。7ページの手紙は、日本からウクライナへのメッセージです。）

1／5
ウ⇨日

全てのクリスマスカードを受け取りました。１箱は、消防署員の子ども達（90名）に、あと２箱は、第25学校と子ども基金と州立小児病院に配りました。（㊟ウクライナのクリスマスは１月７日。すてきなクリスマスプレゼントになりました。）
ジトーミル消防署から日本の消防署への感謝状（㊟３ページ参照）を送ります。

1／19
日⇨ウ

事故処理作業者支援キャンペーンプロジェクトが、４月26日のチェルノブイリ12周年記念日に、チュマクさんを日本に招待し、お話をしていただく企画を立てました。あなた方の考えはどうですか？

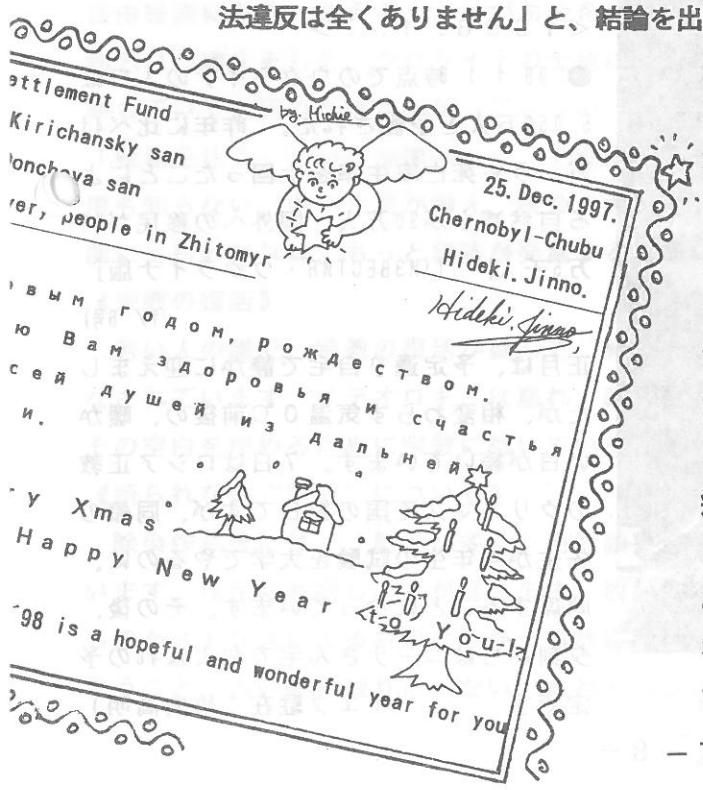
1／21
ウ⇨日

チュマクさんに会いました。彼は、日本で会える機会を与えてくださる事に、とても感謝しています。しかし、今、彼は心臓病（非常にひどい不整脈）のため、医師から、飛行機や船での旅行を禁じられているのです。従って、私達の意見では、アントニューク氏がよいと思います。彼は、事故処理に参加したし、現在の消防署員や事故処理作業者についてよく知っているからです。

救急車を安く買える会社を見つけました。節約できるお金で、ナロジチ病院の別の車の修理部品を買う事ができます。この提案に、あなた方が同意してくださると嬉しいのですが…。（㊟1/24の運営委員会にて承認されました。）

1／23
ウ⇨日

ナロジチへの医薬品代、救急車代の国際送金のすべてが、私達の手元に届きました。ありがとう。さっそく、医薬品の購入にあてる事ができます。（㊟日本からの送金の手続きは、1/19までにすべて完了していました。）
昨日、事務所で移住基金に対する税務調査がありました（1994年から1997年までの外貨の全てについて）。調査官は、「あなた方（移住基金）には、ウクライナ外為法違反は全くありません」と、結論を出しました。神経を使う１日が終わって、私達は、やっと静かな生活に戻りました。今日、ナロジチのザイチュク地区長の秘書が事務所に来ました。彼女の話によれば、ナロジチは、第３ゾーンに移行するそうです。これは、「この地域に再び政府のお金がおりるようになる」という事を意味しています。（㊟第２ゾーンは、移住が原則であるため、投資はしないという方針であった。）
ここの医療状況は、未だに危機的です。医療や月給に対して、政府は全くお金を支払っていません。だから、ナロジチ病院へのあなた方の支援は、金額では言いあらわせないほど貴重です。この私達の感謝の気持ちを、日本の皆さんに是非伝えてください。



竹内さんのウクライナ便り

＜１９９７．１２．２６＞

こちらはまた気温が 3℃くらいまで上がり、いっときの－23℃や－25℃という世界がうそのようです。クリスマス・ツリーやその飾り物、プレゼント用の品物の売り出しが始まっていますが、無信仰かつ無粋な私にはあまり縁のない世界です。

ニーナ・シバノヴァさん情報（今でも原発関係の仕事をしている、ご主人からの情報でしょう）では、チェルノブイリ３号炉で放射性物質を含んだ冷却水が、漏れているにもかかわらず修理代がないので「冷却水が、そのままプリピャチ川からドニエプル川に流れ込んでいる」という話があるそうで、飲料水はミネラル・ウォーターを買うか浄水器を使えと忠告されましたが、私は未だに実行していません。ニーナさんからは、皆さんに新年のご挨拶を伝えてほしいとのことでした。コヴァレフスカヤ氏は23日からひと月くらい、一家でシベリアの母君のところへ里帰りするとのことで、やはり皆さんによろしくとのことです。私は昨年と同じく自宅で一人ワインでも飲みつつ新年を迎える予定です。98年がよいお年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

【世論調査　成人2,129人回答】

今日ウクライナの直面している問題中、あなたが最も懸念するのは？（複数回答）

人々の生活水準‥79％　犯罪‥42％　環境問題(チェルノブイリその他)‥30％　ロシアとの関係‥21％　安全保障‥16％　ウクライナの復興‥9％　ウクライナでのロシア語の地位‥5％　民族間の関係‥4％　クリミア・黒海艦　隊問題‥3％　その他‥5％　（「День」12/13号）

●ウクライナの失業者数…60万人、1997年始めに比べ1.7倍に増加　（ИЗВЕСТИЯ・ウクライナ版」12/19号）

《キエフ市内の“聖アンドレイ教会”》

＜１９９８．１．７＞

●'98.1.1 時点でのウクライナの人口は5,050万人と予側された。 昨年に比べ41万。うち死亡率生率を上回ったことによる自然減少が30万人、国外への移民が11万5千人。（ИЗВЕСТИЯ・ウクライナ版」1/ 6号）

正月は、予定通り自宅で静かに迎えましたが、相変わらず気温０℃前後の、暖かい日が続いています。７日はロシア正教のクリスマスで国の祝日ですが、同僚の先生が４年生の試験を大学でやるのに、同席することになっています。その後、夕刻からはニーナさん宅でおよばれの予定です　（キエフ駐在：竹内高明）

ウクライナに里帰りして・・・山崎タチアナさんが見た

１０年目のウクライナ（後編）

《行列の時代は終わった》

朝市には、輸入品が増え、衣類や靴も多く、食料品や薬も売られていましたが、日付が古くなっていました。売っている人にルートを聞いても教えてくれませんでした。もう、並んで買わなければならない時代ではなく、お金さえあれば手に入るようになりました。だけど、輸入品は自国のダメージになります。コカ・コーラやスプライトの看板が目立ち、自国製品の広告は少ない。でも年配者は輸入品は買わず、洋梨のレモネードのほうがおいしいと思っています。

《自由市場のマフィア》

キエフの自由市場を支配するマフィアが増え、馬鈴薯を売るのはおばさんだったのに、化粧をした若い女性になっていました。農家の人は自由市場へ向かう途中でマフィアに安値で売らなければならないのです。

《畑に出かけると元気になる》

ほとんどの人は畑を持っていて、「食べるため」と「生き甲斐のため」に耕しています。畑に出かけると元気になるのです。馬鈴薯を作り、野菜がない冬のために保存し、自分たちで工夫しています。お湯やガスがでなくて困っています。暖房が入らなくなり、料理には電気プレートを使っているが火力が弱く、あたりまえの日常生活ができなくなってしまいました。

《ニューリッチ》

一部の「ニューリッチ」といわれる人達の生活水準は格段に高いようですが、文化は低い。公共施設は良くならない、窓や扉の壊れたバスが走っている、道路もデコボコなのに直さない。自由経済になり、使える人だけがお金を使い、キエフでは独立後、貧富の差が激しく、乞食や物乞いが増えました。ウクライナの土地は国有地ですが、一部は個人で所有しています。畑を耕していても何の利用代も払っていない。誰の土地なのかがわからないまま勝手に使っている。「税金を払う」という法律もなく、把握する方法も制度も知らない。中小企業が増え、税金を納めて公的機関に支払われれば、もっと経済が発展すると思います。

《宗教の復活》

若い人の間で、宗教の復活が盛んで、教会の再建もなされています。イデオロギーは崩れ、誰も信じず、その空白を埋めるために宗教に傾いているようです。

《語られない“事故”について》

除染作業員には、「鬱（うつ）」が多く、自殺願望を持っています。住民にも同じことが言えます。放射線によるものかストレスによるものなのか？事故について語らないのは「わかっていても言わない」と言うこと。古い傷に触りたくない、忘れてしまいたいことだからです。　（おわり）

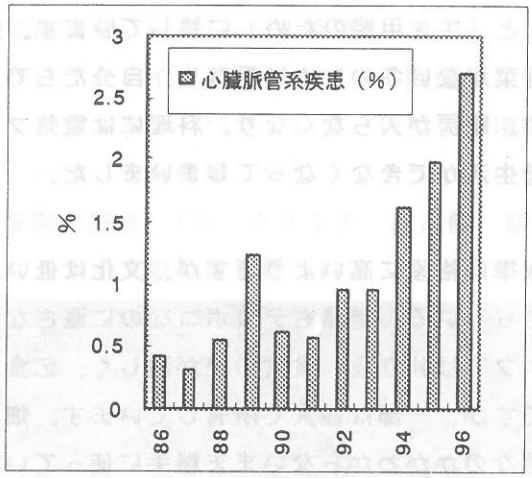
《ロシア語を教えるタチアナさん》

連載　11

強制疎開地域で暮らすナロジチの子どもたち

（ナロジチ病院のデータより）

年	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96
人口	10780	10649	10591	6582	5625	8173	7442	7120	6634	6044	4704
児童数（人）	958	905	895	803	810	675	925	914	795	756	700
のべ罹病児童数（人）	2594	2533	1396	1778	1218	1573	673	1015	836	1159	1319
罹患率（%）	271	280	156	221	150	233	73	111	105	153	188
内分泌系疾患（人）	149	69	125	220	60	102	20	17	36	20	30
心臓脈管系疾患（人）	4	3	5	10	5	4	9	9	13	15	19
骨肉腫・リンパ腫（人）	0	1	1	2	1	6	4	3	4	2	3
神経疾患（人）	402	3	111	131	34	75	16	80	115	41	145
胃腸疾患（人）	48	9	41	44	33	35	122	341	214	169	310



私たちが支援している、ウクライナ・ジトーミル州の汚染地域ナロジチの強制疎開地域には、今も約5000人の住民が生活している。政府の移住政策が破綻し移住がこれ以上出来なくなったためである。私たちが昨年来、ナロジチ病院の給水・給湯設備やスチーム暖房の援助をしたことにより、病院の医療体制は大いに改善された。病院は私たちの要望に応え、この地域の病気の状況に関する詳細なデータを提供してくれた。ここに紹介するのは、そのごく一部である。

上の表に見られるように、原発事故以来この地域の人口は半減した。12の村が閉鎖されたがまだ21の村や町には人々の暮らしがある。汚染した土の上に住み、汚染した食べ物をたべなければならない環境でも子どもたちはくったくなく遊んでいる。しかし、この700人の子どもたちの罹患率は1996年には188%、すなわちどの子も平均2つの病気を抱えるまでに増加し、さらに増加傾向にあるようだ。　事故直後の大きな驚異だった甲状腺など内分泌系疾患は、1991年頃を境に次第に減少しつつある。　しかし、それに替わって事故前は希だった骨肉腫やリンパ腫などの癌に加え、神経疾患、胃腸病、心臓循環器系の病気が激増している。心臓循環器系や胃腸病、神経疾患などは事故処理作業員たちが今苦しんでいる病気である。こうした、「大人の病気」を15歳以下の子どもたちが病んでいるのはどうしたことだろうか（河田昌東）。

ロシア語資料の翻訳は竹内高明氏による

ゼレムリャ村から アンケートが届きました！！

《1月26日に無事届いたアンケート》

´97年10月28日から29日にかけ、バラノフカ地区のゼレムリャ村で、アンケート調査（第二弾）が行なわれ、事故以前からそこに住んでいる住民を対象に、45世帯 105人についての回答が得られました。アンケートの詳しい分析は次号で紹介しますので、取り敢えず、翻訳をした竹内さんのコメントをお読みください。

これは同年５月、同村において、汚染地域からの移住者に対し行なわれたアンケートと比較対照するためのものである。アンケート用紙は、救援・中部の依頼により「移住基金」が作成、印刷はバラノフカ地区の地区新聞社が行ない、アンケートの配付回収（と一部代筆）には、同村診療所職員の協力を得た。回答者45名の内13名は、同村のコルホーズ「ポレーシェ」に勤務、７名は同村営林署の職員であり、残る25名は老齢年金の受給者。家計の苦しさは移住者と同様であり、薬を買うお金がないという人がほとんど。個人の収入は、現在のウクライナでの平均月額約80ドル（約１万円！）を軒並み下回っており、特に老齢年金の月額は約17ドル～約30ドル。疾病については、高齢者に「虚血性心疾患・心臓硬化症・高血圧症・関節炎」等がみられ、若年層には主として「感冒性疾患」。救援・中部への希望という項目では、診療所への援助に感謝すると共に、「今後も支援を続けてほしい」との回答が圧倒的に多かった。なおアンケート訳出に際し、不明な筆跡の判読をキエフ在住の大学生エレーナ・シガル、大学講師ナターリャ・シゾーノヴァ両氏に助けていただいたことを記して感謝したい。

´98 1月 5日　キエフ中央郵便局にて／竹内高明

☆移住した人達との大きな違いは、①仕事の問題、②病気の種類などにありそうです。
次号を楽しみにお待ちください。（美）

事務局だより

はじめまして！ 前号で、ご紹介にあずかりました、山田と申します。昨年の10月から、事務局で、主にパソコンの入力をお手伝いさせていただいております。ひょんなことから、こちらでボランティアを始める事になったのですが、事務局の優しい皆さんに支えられ、いろいろ教えていただいており、勉強になることが多いです。昨年、長年勤めていた会社を辞め、しばらく、イギリスにアロマセラピーの勉強に行ってました。今は、ロンバケ（ロングバケーション）中ですが、春頃から仕事を再開する予定なので、探しているところです。

現在２？才・♀・独身。趣味は、海外旅行とサッカー観戦。グランパスと日本代表と平野選手を応援しています。今年はワールドカップの年です。みんなで日本代表を応援しましょう！（山田千穂）

ふりいとーく コーナー

チェルノブイリ救援をなぜ？

単刀直入にいえば、どうしてもチェルノブイリでなければいけないかというと、そういうわけではない。そうはいってもいまはチェルノブイリなのです。

かつて、「思想の科学」の市民サークル欄に「教科書の会」というのがあって、東京にいた私は代表者を訪ねて会員となり家永教科書裁判にかかわっていたことがあります。

東京地裁での杉本判決に出会い、会員と勝訴の喜びを味わうと同時に何かひんやりとしたものを感じたこと。そして、支援とか救援をすることは、実は自分が救援されている、力を与えられているのかもしれないと思った事を記憶しています。

学校教育の中で誰も育ち、今何かの仕事をして生きているわけですが、自分にとっての学校は、制度としての学校よりその外にあったと思えます。

私の学校生活は、先ほどの教科書の会、駒場での連続シンポジウム、そこから発足した東京伝習館救援会（ＴＤＱヤングと称していました。）などなど、居場所を学校の外に置いていたことが多いのです。そして、そこに自分を置くことによって学んできたもの、おもしろかったものが大きかった。

「袖触れ合うも他生の縁」ということばがありますが、他生というのは前世のことだそうで、前世からの因縁だということなのです。自分の志向（指向・思考・嗜好）に照らし合わせて、そうかもしれない。だから、今ここにいるのか。

そして、かつて感じた原点、救援するということは実は救援されているということなのだということ。

そして、柿の木屋があってチェルノブイリに出会ってしまった私が今ここに居る、だからチェルノブイリなのだ、そういうことなのです。　　チェルＱ　市川　寛

編集後記

- この冬、家族や身内に、新しい生命を迎え、生きる力を精一杯に燃焼した人生を見送り、また病と戦う日々がいちどきにやってきた。寒風にそびえる枝を見つつ、穏やかな春を待つ。（京）
- １２年前の寅年は、原子力発電所「チェルノブイリ４号炉」の事故、スペースシャトル「チャレンジャー」の事故が重なった。今年の寅年こそ「明るい話題」の年になって欲しい！（美）
- 今年は、ボランティア貯金や外務省からの交付金に頼りきることなく、会員からの救援金を軸として活動できるように力をつけたい！！（寛）
- 名古屋市中川区の「勢文社」さんのご好意により、赤字覚悟（ほとんど材料代のみ）で、印刷を引き受けていただいた。こんなにきれいにポレーシェが生まれ変わり「贅沢すぎる！」と皆さんから叱られそう…。（Ｊ）

お知らせとお願い

ポレーシェ41号以降、発送用名簿の宛名印刷が、プリンターの不調により印刷されず、一部の方に発送されなかった可能性があります。お心当たりの方はお知らせください。
改めて再発送させてただきます。